医学中央雑誌と Index Medicus の最近の改訂

Recent Revisions in Igaku Chuo Zasshi and Index Medicus

東京医科大学図書館

今井義訓*

旧態を依然として保持しつづけていた医学中央雑誌(以下医中誌とする)が、ここ数年の間に、いくつかの利用者の要望にこたえる改善を行った。

Index Medicus (以下 IM とする) は、MEDLARS の一産物として、より良い文献検索システムを作り出すために常に積極的な改訂が加えられている。

これらの改善又は改訂の利用者側からの意義を考え、要望をつけ加えてみたい。

I. 医学中央雑誌

医中誌は日本の医学領域における唯一の総合的な抄録誌として、日本の医学研究とともに、長い歴史を歩んで来た名誉を持っている。その間に、医学研究に対して果たした貢献は、極めて大きいといえる。だが、抄録誌としての構成の形態的、機能的な面から見ると、索引・抄録ともに創刊当初から、その形式にはあまり大きな画期的な変化は、現れて来なかった。

これを医中誌の対象とする利用者の面から見ると、長い間医学研究者がその対象の主体であり、彼らはその形式にともなう使い勝手の良し悪しには、あまり関心を持たないといえる。ところが近年図書館員が情報検索の仕事をするようになり、検索手段として医中誌が、多くの図書館員によって、頻繁に使われるとともに、利用面からその構成の改善を要望する声が大きくなった。最近に於て構成上重要な改善がいくつかなされた。

医学中央雑誌索引誌と件名名標目集の刊行

上記の標題のもとに、医中誌の明治 36 年 (1903 年) の創刊以来 70 周年を記念して、283 巻 (昭 47) 総索引号 2448 号付録として刊行された。これは医中誌の各巻索引号のうち、170 巻 (昭 36) — 283 巻 (昭 47) の 114 巻分の和文見出し語 (キイ・ワード) を、50 音順に、一

覧表に配列したものである。

構成の細部については、実際に現物を参照していただきたい。要点は件名標目相互の関連を示す記載様式として、① 同義語は→ ② 関連語は () ③ 語幹と形容詞句の倒置はハイフン、をもって表示し、他に薬物名・寄生虫名・微生物名・動植物名・腫瘍等疾患名などの件名としての表し方と、欧文件名との関係についての原則を明文化している。

これらの索引構成上の原則に関しては、従来も各巻の索引を使用する過程で、経験的に理解している利用者が多かったであろうが、それが明文化して示された点に、意義を認めたい。

件名標目についても、索引作成者の側にとっては、当然何らかの形で件名の典拠があったであろうが、公表されておらず、利用者にとっては検索しようとする主題ごとに、適切な件名があるかどうかと各巻の索引を、試行錯誤のうちに摸索しなければならぬ不便にさらされていたわけであるが、この件名標目表によって一つの典拠が示された。

今、114 巻分の件名標目集を見ると、89 頁で件名数は参照も含めて 7000 ほどであると、1 巻の索引に現れない件名数はかなり多く、特殊な件名になるほど、これを試行錯誤のうちに探し出すことには、困難と不確実がともなうものであった。

従来から指摘されて来たこれらの不備を埋めるため、件名標目の集大成として、この件名標目集が刊行されたことは、形式の変革にあまり積極的でなかった医中誌としては、画期的な改善として歓迎したい。

改訂の必要性

件名索引を医学の進歩に即応した今日的なものに保つためには、一定の期間を置いて、新しい件名を増補することが必要であるということで、改訂の必要性を指摘しておく予定であったが、今、手許に件名標目集の改訂版

* Yoshinori IMAI : Tokyo Medical College Library

が送付されて来たので、その必要はなくなった。

和名件名標目集改訂版の刊行

170 巻 (昭 36) — 320 巻 (昭 50) までの 150 巻分の、各総索引号と文見出し語を収録している。記載様式などについては、旧版と同じである。98 頁で件名数は参照も含めて約 7600。3 年間 36 巻分の件名約 600 が増補されている。

ちなみに、増補の必要性を指摘する意味で調べた結果を紹介しておく、医中誌 313 巻 (昭 49) 索引号の和文物件索引に現れる見出し語で、先の件名標目集に収録されていないものが 46 あった。その中には「神経梅毒」「廃棄物」など、最近の医学的状況を反映していると、感じられるような件名もある。

今後も改訂版の刊行の必要性を要望しておきたい。

欧文件名標目集の刊行を要望

和名件名標目集をひらいて見ると、欧文件名への「を見よ」「をも見よ」参照と、欧文名から和名件名への、逆参照が数多く出てくるのに、肝心の欧文件名標目集の本体がないのは何といっても片手落であり、早く刊行されることが望ましい。

件名標目のカテゴリー・リストの作成を要望

医中誌の効率的な利用にとって、件名標目表の構成をより完全なものにするために、件名標目を科目・分類項目に基いて区分した形の、カテゴリー・リストの作成が望まれる。だが医中誌の件名は、例えば MeSH の件名のように厳密に規制されていないと思われるので、カテゴリーを先行させて体系的な階層化を試みるのは困難であろう。

そこで件名が、どの科目・分類項目に属するかを対照させた形のリストでも有効である。例えば、

結膜炎……細菌学 (ウイルス)、疫学 (伝染性疾患)

眼科学 (結膜)

のようにである。

部門別に分冊化されている Excerpta Medica でも、求める主題に最も近い部門を選ぶための資料として、良く使われる医学用語から、それに適当な部門を対照させたリストを作成している。医中誌の場合、科目別に分冊化されていないので、各巻の索引は各科目に共通であり、科目を選ぶために苦勞することはない。

しかし医中誌には、常に最新の 10 巻分ほどは、索引号が未発行のものがあるので、上記のようなリストがあれば、非常に役立つわけである。今までも利用者は、不便を感じながらも、経験的に自分なりの方法論を見出し

てその不便を埋めているのである。このようなリストができると、索引のみでなく分類項目の面からの主題検索もやり易くなるわけで、その作成を期待したい。

検索用薬名集の刊行

抄録誌 170 巻 (昭 36) — 295 巻 (昭 48) までに掲載された欧文薬物名 (商品名及び研究番号) のすべてを収録し、それに対応する化学名・一般名ないしは適応疾患名を「索引誌掲載名」としてのせている。

296 巻索引号 2552 号付録として刊行。記載様式の細部については現物を参照されたい。

医薬学の件名索引を作成・検索する時に、1 つの物質で数種の名称を持つ薬物は取扱いの厄介なものである。上記の薬名集を使うことにより、薬物名を検索する時の統一性が保たれる。件名標目集の補助的資料として重要である。

科目・分類項目の変更・新設

317 巻 1 号 (2584 号) 昭和 50. 1. 1 より改訂が行われた。長い間科目数は 23 だったものが、33 になった。新設は 8 科目である。この 8 科目は、現在の医学の部門化の状況からみて独立の科目とするのが適当である。

科目一覧 ○印：新設 △印：変更

生理学	整形外科学
生化学	○形成外科学
薬理学	眼科学
薬学	耳鼻咽喉科学
解剖学	産婦人科学
病理解剖学	△皮膚科学
○実験腫瘍学	(泌尿器科学と分離)
衛生学	△泌尿器科学
○疫学	○麻酔学
細菌学	○臨床検査学
△血清学・免疫学	○リハビリテーション
(前は血清学)	歯学
法医学	○看護学
精神医学	○東洋医学
内科学	獣医学
小児科学	△医史学
△放射線学	(社会医学と分離)
(前は理学的療法学) △社会医学	
外科学	

科目の新設にともなって分類項目も 100 あまり増え、約 500 になった。その細目については現物を参照されたい。

医中誌のような抄録誌の場合、索引と抄録本体が別になっているので、索引による主題検索ばかりでなく、抄録を配列する規則である分類項目の立て方によっては、この面からのアプローチが有効である場合も多い。その意味で分類項目の立て方にも、十分注意する必要がある。特に常に最新の10巻分ほどは、索引が未発行であるのでなおさらである。

例えば、麻酔学の科目が新設されたので、外科学—麻酔の分類項目はなくなり、麻酔学の下に(1)局所麻酔(2)全身麻酔(3)特殊麻酔(4)麻酔剤(5)麻酔前投薬(6)麻酔補助剤(7)麻酔器(8)蘇生・人工呼吸(9)人工心肺(10)麻酔管理・ペインクリニック(11)小児麻酔・老人麻酔・産科麻酔(12)一般の12項目が新設された。

ペインクリニックという項目があるが、これは件名標目としては使われていない用語なので、この主題を検索するには、件名の「痛」「麻酔」などによるものと、分類項目の「ペインクリニック」によるものの2つの過程が可能である。

これは先に述べた、件名標目のカテゴリー・リスト、又は件名と分類項目の対照リストとつながる問題で、こういった関連づけをする補助的資料の作成によって、医中誌も随分使い易くなるであろう。

医学中央雑誌利用の手引き

317巻(昭50)から各巻の1号の表紙の次に黄色頁ではさみこまれているので、現物を参照されたい。医中誌には、かつてこのような利用上の指針を示すたぐいの、解説が付されたことはなかった。初めての利用者にとっては大変有用である。

なおこの手引きによれば、306巻(昭49)の索引号より、抄録のある文献のみ、その記載該当頁の数字をゴチックで表わし、抄録の有無を表示した。

医中誌は抄録誌であるが、抄録のない文献もかなり含まれており、298巻ごろから(会)=学会記事には抄録がつかなくなった。だから頁数がゴチックで表わしてある文献は、大体原著・解説などのフルペーパーである。

II. Index Medicus

IMにおける最近の改訂の跡をたどることは、主としてその件名標目表である MeSH の変遷を見ることになる。何故なら、件名索引の作成と利用を効率的に行うことの成否は、件名標目表の構成に大きくかかわっているからである。

・4巻(1963年)—6巻(1965年)

医学図書館 22巻2号('75)

3年間副標目の使用を中止した。また、これまでに文献の書誌事項の記載形式に、何度か変更があったが、1965年以降は一定している。

・7巻(1966年)

副標目が再び導入された。次の42標目である。

Abnormalities	Innervation
Administration & Dosage	Instrumentation
Adverse Effects	Isolation & Purification
Anatomy & Histology	Metabolism
Biosynthesis	Nursing
Blood Supply	Occurrence
Classification	Pathogenicity
Complications	Pathology
Congenital	Pharmacology
Cytology	Physiology
Diagnosis	Physiopathology
Drug Effects	Poisoning
Drug Therapy	Prevention & Control
Embryology	Radiation Effects
Enzymology	Radiotherapy
Etiology	Surgery
Familial & Genetic	Therapeutic Use
Growth & Development	Therapy
History	Toxicity
Immunology	Transplantation
Injuries	Veterinary

それぞれの副標目が、使用できるカテゴリーを指定している。

IMの利用者にとって、ある標目のもとに非常に多くの文献があげられている中から、必要な文献を探し出すことが極めて困難な作業となっており、そのような標目を適当に分割することが、さけられなくなったのである。

・8巻(1967年)

副標目 11 追加	
Analysis	Microbiology
Blood	Mortality
Cerebrospinal Fluid	Radiography
Chemically Induced	Rehabilitation
Diagnostic Use	Urine
Education	

・9巻(1968年)

Health Careに関する1カテゴリーと4サブカテゴリー

一の追加。これにともなう、主標目 675 追加。

副標目 7 追加, 合計 60。

Antagonists & Inhibitors	Standards
Chemical Synthesis	Supply & Distribution
Manpower	Utilization
Secretion	

- 10 巻 (1969 年)
主標目 87 追加
- 11 巻 (1970 年)
主標目 162 追加。件名総数約 7500 になる。
- 12 巻 (1971 年)
主標目 64 追加
- 13 巻 (1972 年)
主標目 307 追加
- 14 巻 (1973 年)
主標目 577 追加
- 15 巻 (1974 年)
主標目 479 追加
- 16 巻 (1975 年)

いくつかの大きな改訂が行われた。

1. 主標目 368 追加 (うち 65 は単数形から複数形への変換)
2. しばらく行われなかった副標目の追加があり, 副標目 8 追加, 合計 68。

Analogues & Derivatives	Methods
Deficiency	Parasitology
Diet Therapy	Transmission
Ethnology	Ultrastructure

副標目の使用上の制限が, 従来のカテゴリー単位からサブカテゴリー単位に細分化され, 厳密になる。

3. サブカテゴリー数が大幅に増加した。1974 年 65, 1975 年 101。
4. MeSH のカテゴリー・リストが, Tree Structure (階層構造) になる。件名標目が包括的なものから最も特殊なものまで, 7 つのレベルの階層に分けられ一覧できるようになった。アルファベット・リストの標目にカテゴリー番号がつけられ, カテゴリー・リストにおける標目の位置を指示する。

5. 相互参照の変更

改訂前		改訂後	
See	X	See	X
See under	XU	See under	XU
See also related	XR	See related	XR

See also specific XS

“See” については 1974 年以前の MeSH では同義語を指していたが, 現在では厳密に同義語を指すのではなく, 密接な関連性を持つ語に対しても使われる。

“See also specific” が中止されたのは, 件名に付されたカテゴリー番号から Trees をたどることで, より特殊な件名を一覧することができるからである。

6. 書誌事項に関する変更として, 号数表示がつくようになった。

7. 日本語文献の表示が, (Jap) から (Jpn) に変った。
◦ 17 巻 (1976 年)

収録範囲の拡大

17 巻 5 号から雑誌文献のみに限らず, 選択された Congress, Symposia, Proceedings, 及び多数著者による単行書の文献も収録されることになった。

記載例 Subject Section

The acceptability of voluntary sterilization sociological, political, and religious aspects. pp. 283-8. Fortier L. In: Schima ME, et al., ed. *Advances in voluntary sterilization*. Amsterdam, Excerpta Medica, 1974. W3 EX89 no. 284 1973.

Knowledge and approval of vasectomy in the United States: implications for educational programs. pp. 338-45. Gillespie DG, et al. In: Schima ME et al., ed. *Advances in voluntary sterilization*. Amsterdam, Excerpta Medica, 1974. W3 EX89 no. 284 1973.

記載例 Author Section

Gillespie DG, Spillane WH: Knowledge and approval of vasectomy in the United States: implications for educational programs. pp. 338-45. In: Schima ME, et al., ed. *Advances in voluntary sterilization*. Amsterdam, Excerpta Medica, 1974. W3 EX89 no. 284 1973.

Gillespie JH: Report from National Institutes of Health/World Health Organization Workshop on advances in comparative virology. *Folia Vet Lat* 5 (3) : 455-74, Jul-Sep 75.

以上に見てきたように IM の改訂の主要なものは, MeSH に関するものである。主題検索の効率性を使用する件名表の構成に大きく依存するものであり, 当然といえる。規模の大きなデータファイルになればなるほど, その点が強調される。

IM でも収録文献の増加に対応して、検索効率を良くするために件名数の大幅な増加が見られる。件名数の増加は件名の特殊性を強め、不要情報を少なくする。例えば Soil Pollutants (土壌汚染物質) という件名は、Environmental Pollution と Soil という件名にまたがる概念を結合して表現するために新設された。又 Prostaglandins は Trees の 5 段階目の件名であり、Prostaglandins A, E, F, などはその細分化された 6 段階目の新件名である。

又副標目も増加しているが、無統制な主標目と副標目の結合は、正常な意味の主題検索の対象にならないノイズを産むので、細かい使用上の制限が付されている。

このように件名の増加によって、利用者の検索上の選

択を容易にするとともに、件名表の統制された用語としての構成を害さないように考えられている。MeSH の新標目と、以前その主題に適用されていた標目との対照リストや、副標目の使用概念などに目を通し、件名表の変更の動向に注意する必要がある。

医中誌と IM は、マニュアルの文献検索のための重要な資料である。その資料の有効で使い易い方向への改訂については、利用者の側からも積極的な要望を出すべきであろう。医中誌の 1 年索引・10 年索引の刊行を期待したい。

(昭和51年 8 月13日受付)

〈表紙紹介〉

北里大学医学図書館

戦後初めての医学部として、各方面から大きな期待を寄せられて、北里大学医学部が丹沢山塊の山なみを望む相模原の地に誕生したのは昭和 45 年 (1970) 4 月であった。来春にはいよいよ第一回卒業生を送り出す。医学部創設、大学病院設立にあたり、その校地の決定には紆余曲折があった。「医学部・大学病院設立概史」によれば当時の相模原校地には、すでに教養部校舎があったが、交通不便かつ未開で、患者にとっては通院難であり、他に校地を探す意見があった。しかし昭和 43 年 1 月、武見太郎日本医師会会長が相模原校地の検分に来られ、「この地に病院を建てても患者は来る」と太鼓判をおされ、これで相模原に医学部を設置する意見がまとまったという。

医学図書館は昭和 46 年 (1971) 7 月、大学病院の開院と同時に、病院当直室の一隅を利用して活動を開始した。当初は新刊雑誌の閲覧および貸出しと複写サービスに応ずる程度であった。同年 12 月ようやく医学部第二研究棟に完成した医学図書館に移転することができた。図書館のメインフロアーは第二研究棟の二階に位置し、書庫は一階および中二階にある。三階から六階までは教員の研究室である。この第二研究棟の東南部には大学病院が西側には教

育・研究の中心となる第一研究棟が位置している。また第一研究棟を通じて、北側の第三研究棟 (実習棟) に結ばれ、図書館は診療・研究・教育の場の中央に位置し、診療・研究・教育に必要な諸情報を逸早く伝達し、又、フィードバックなし得るような、設計上の配慮がなされている。

図書館資料は近代的医学情報センターを指向して、着実に整備されつつあるが、昭和 50 年 10 月現在の単行本の所蔵冊数は 33,000 冊で、和書 18,000 冊、洋書 15,000 冊である。昭和 49 年度の年間購入受入冊数は和書 654 冊、洋書 563 冊で、和書に関しては、国内で出版される主要医学書は予算の許す範囲で網羅的に収集するよう努めている。雑誌は昭和 49 年度の受入タイトル数は、購入・交換・寄贈を含めて、1,729 タイトルで、和雑誌 769、洋雑誌 962 となっている。また 49 年度の製本冊数は 3,359 冊であった。当館も開設後 5 年を経過し、人員も安定し、資料も着実に増加、整備され、いよいよ学内各キャンパス・大学病院の期待に応えるべく、充実した図書館サービスが提供できるよう、館員一同努力している。

(昭 50. 12 月 12 日受)